

平成30年
(2018年) 冬号

大津・南部の農業

●発行●

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所農産普及課
草津市草津三丁目14-75
TEL 077-567-5421~5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス
ga35@pref.shiga.lg.jp
Facebook
https://www.facebook.
com/facetoagri.o.n/
発行責任者 榎木 秀和

この印刷物は古紙パルプを配合しています

県内初！野菜の グローバル ギャップ GLOBALG.A.P. / アジア ギャップ ASIAGAP 認証取得

「GAP」とは、産地や農業者が安定した経営を続けるために、思いもよらぬ出荷停止や農作業事故等を起こさないための対策をルールとして定め、生産工程の管理や改善を行う取組のことで、特に、輸出やオリンピック・パラリンピック東京大会に向けてGAPが注目されており、県内でもGAP認証取得の動きが高まっています。

そのような中、今年の7月に県内の野菜生産組織では初めて「GLOBALG.A.P.」および「ASIAGAP」の認証を取得された2つの組織が管内に誕生しました。それぞれ認証取得に向け、ポイントとなる帳票整備では、ICTシステムを活用して省力化、効率化を図るなど、1年かけて準備を進められてきました。今では、GAPの取組により生産性の向上や従業員の働き方の意識が高まるなど、経営改善の効果を実感されており、認証取得を契機に、輸出や販路拡大に役立てたいと考えておられます。



株式会社 横江ファーム (草津市)
「GLOBALG.A.P.」

コマツナ、ホウレンソウ、ハクサイナ、ミズナ



農事組合法人 開発営農組合 (守山市)
「ASIAGAP」

メロン、キャベツ、イチゴ、ミニトマト

今後は、国際水準GAPの認証が、ますます増加すると見込まれます。みなさんも経営改善を図るため、こうした取り組みを始めてみませんか？

興味がある方は、是非、農産普及課までお問い合わせください！

滋賀県育成の水稲品種

「みずかがみ」が本領発揮!

暑さに
負けず
高品質!

1 暑い夏でした!

平成30年の夏はたいへん暑く、7～8月の平均気温が28.5℃に達し、平年よりも約2℃高くなりました。

2 暑さに負けませんでした!

水稲は穂が出てから20日間の平均気温が27℃を上回ると白未熟粒が発生しやすくなります。

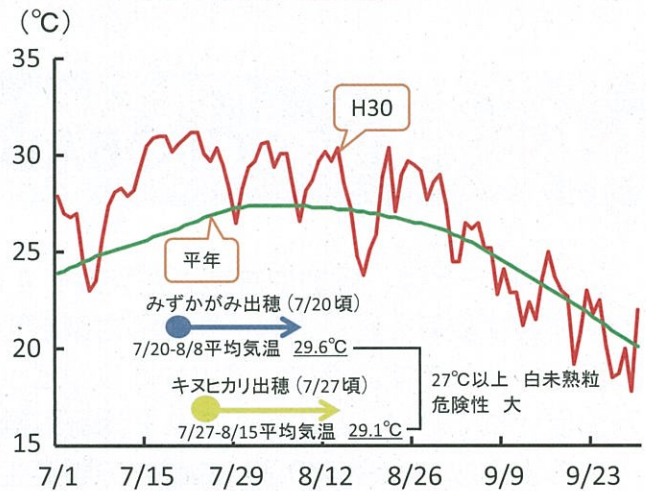
平成30年は「みずかがみ」、「キヌヒカリ」とも、その期間の平均気温が29℃を上まわり、「キヌヒカリ」では一等米比率が53.7%と低い水準にとどまりましたが、「みずかがみ」では89.6%となり、暑さに強く高品質という本領を発揮しました。

3 さあ、もっと!

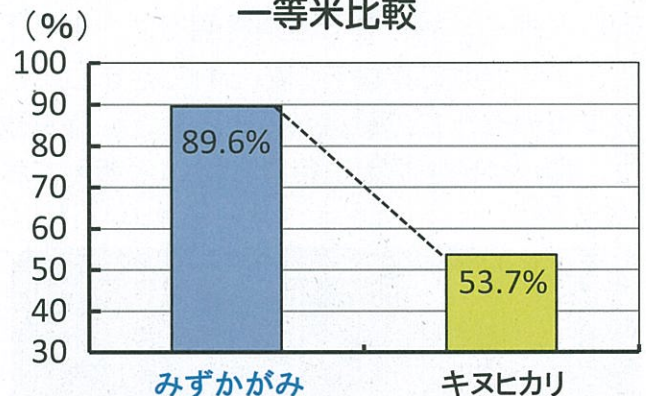
「みずかがみ」は販売開始以来、おいしさ(H27～29、特A取得)と安全・安心(全量、環境こだわり栽培)という点から、たいへんよく売れており、生産量が不足しています。

さあ、みなさん、もっと「みずかがみ」を作りましょう!

7～9月の日平均気温【大津アメダス】



一等米比較



注) 全農滋賀県本部検査分、10/5現在

期待の小麦新品種「びわほなみ」

多収で、
高品質!

本県小麦の奨励品種候補である「びわほなみ」について、その特徴を紹介します。

「びわほなみ」の主な特徴 (「農林61号」と比較)

- ① 出穂期、成熟期が3～4日早い。
- ② 茎の長さは約9cm短く、倒伏しにくい。
- ③ 穂数は約20%多く、多収である。
- ④ 製めん適性は全ての項目で優れている。

平成31年産では県内において約169haの作付が計画されています。今後県では、栽培特性や加工適性についてさらに検討し、近い将来の奨励品種化を目指すことにしています。

穂の特徴



びわほなみ

農林61号

台風
対策

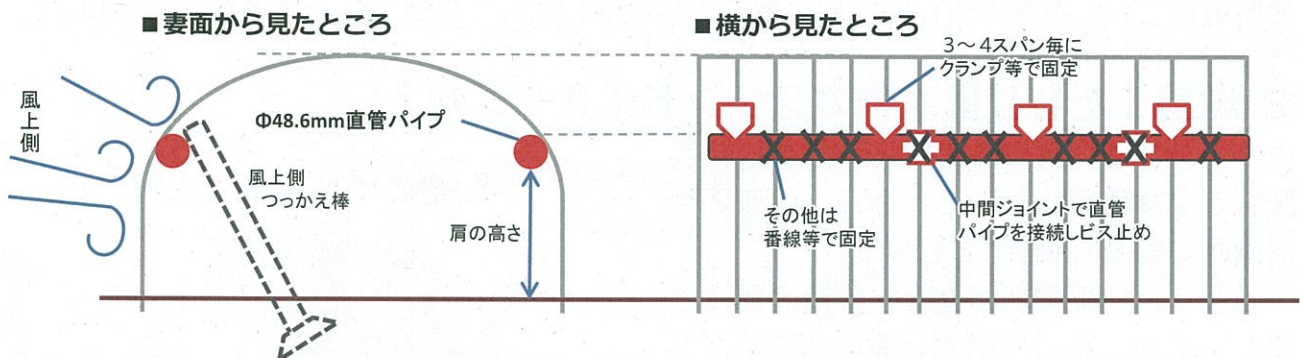
『今すぐできる』パイプハウスの補強方法

1 はじめに

平成30年9月4日に接近した台風21号では、彦根市で最大瞬間風速46.2m/s、大津市で31.3m/sと観測史上最も強い強風が吹き、多くのパイプハウスが全壊・半壊等の大きな被害を受けました。

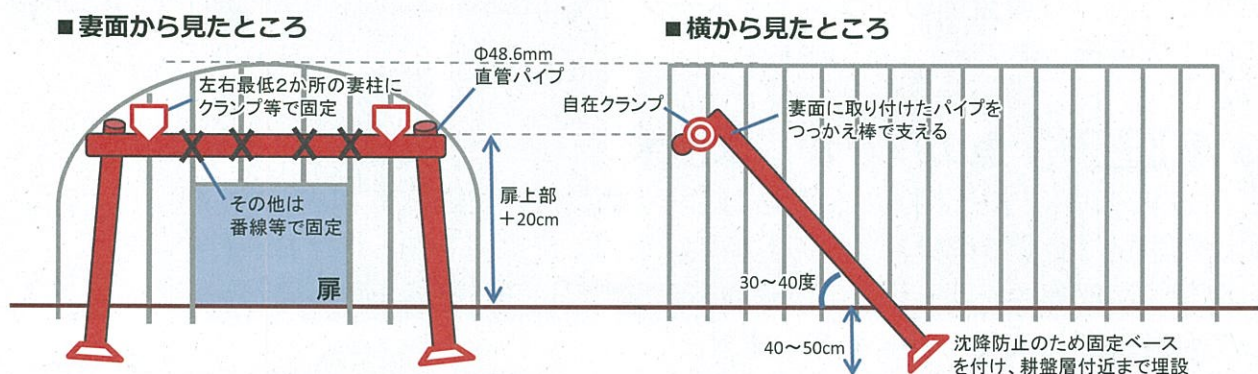
こうしたことから当課では、現在、被害軽減に向け、パイプハウスの強化方法を検討しています。ここでは、『今すぐできる』簡易な補強方法を紹介します。

2 【側面の補強】



- ・太さ48.6mmの直管パイプを、側面の肩の高さにクランプ等で固定します。
- ・猛烈な風が懸念される場合には、風上側2～3mおきにつかえ棒を入れます。
- ・費用は、側面片側10mあたり約7,000円^{注)}です。

3 【妻面の補強】



- ・妻面の扉より上部に48.6mmの直管パイプを固定し、両脇をつかえ棒で支えます。
- ・費用は、妻面1か所あたり(間口6.5mと仮定)約9,000円^{注)}です。

注) 図赤色で示した資材費、H30.10月 試算

4 おわりに

パイプハウスの立地条件等で被害状況は異なるため、個々に応じた適切な対策を考える必要があります。メンテナンスは平時に行い、台風に備えましょう。

※補強技術の詳細については、当課普及指導係までお問い合わせください。

環境こだわり農業のさらなる高みを目指して

1 環境こだわり農業の新たな挑戦

滋賀県の平成29年度の環境こだわり農産物の栽培面積は15,608ha(大津・南部管内1,439ha)で、水稲では、県内の作付面積の45%で環境こだわり米が栽培されています。

県の認証制度が始まった平成13年と比較すると取組面積は約40倍に増えており、その結果、化学合成農薬の使用量は約4割、琵琶湖やその周辺環境へ排出される農業系の窒素負荷量は約2割削減されています。

県では、この環境こだわり農業への取組をさらに進め、より安全で安心な農産物を消費者に提供するため、化学合成農薬や化学肥料を使用しないオーガニック農業(有機農業)を環境こだわり農業の新しい取組(象徴的な取組)として位置づけ、推進を始めました。

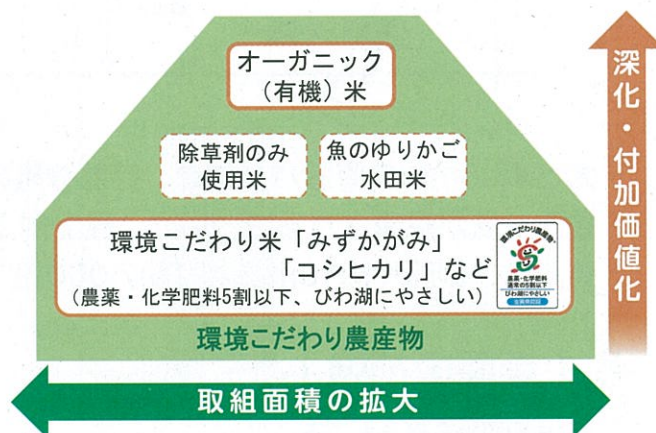
2 環境こだわり農産物のブランドイメージ向上

オーガニック農業は化学合成農薬や化学肥料を全く使用しないことから、生産面や流通面で多くの課題があります。

当面は、技術開発が進み、普及の目途が立った水稲と茶について、需要に応じた生産を基本に推進することとしています。

なかでも新たに推進するオーガニック米(有機米)を足掛かりに「魚のゆりかご水田米」などの環境こだわり米の付加価値化を高め、有利販売・流通拡大を図ることで、環境こだわり農業全体のブランドイメージの向上を目指します。

取組のイメージ(水稲)



3 事例紹介 魚のゆりかご水田米

「魚のゆりかご水田米」は、環境こだわり農業への取組に加え、魚が水田に遡上できるよう排水路に魚道を作り、3つの追加取組を行った水田で作られたお米です。

大津・南部管内では、今年度、草津市志那中町、守山市木浜町、野洲市安治、須原において合計54.2haで取り組まれています。

